

駿河台地区副所長

著者	中村 孔一
雑誌名	明治大学情報科学センター年報
巻	15
ページ	1-1
発行年	2003-11-01
URL	http://hdl.handle.net/10291/4299

【副所長所見】

中村 孔一〔駿河台地区〕

文部科学省が2003年度から開始したプロジェクト「特色ある大学教育支援プログラム」に本学の申請した「ネットワークを用いた教育学習支援システム」が選定されました。採択通知に付された採択理由には、「この取組は、1981年から実施してきた情報基礎教育の推進を引き継ぐものである」と評価されています。情報科学センターの長年にわたる努力の成果が認められたことをうれしく思うと同時に、申請担当者として、情報基礎教育にご尽力頂いた先生方、それをサポートして下さった職員、助手補の皆さんに、あらためてお礼申し上げます。

申請書に今後の課題として記した諸課題を達成することは、選ばれた大学の責務だと考えます。皆様のより一層のご協力をお願いいたします。

教育というものの原点が、教える者と学ぶ者の face to face な関係を通して智慧と知識を伝えることにあるのだという主張は、おそらく今後も変わらない真理だと思います。特に、知識の伝達はともかく智慧の伝達は、直接的な人と人の中で伝わっていくという自動詞的な伝わりかた以外にその伝達の方法がないと言ってよいでしょう。

その意味で、情報技術の教育への活用が、この教育の本質を変えることはないと考えます。私たちも、今回の申請のなかで、ネットワークを用いて創り出すヴァーチャルスペース上の学習関係は現実の空間での対面的な学習関係を相補的に補完する手段にすぎないことを強調しています。しかし、適切に用いれば、大きな効果と多くの可能性を持っている手段であることも事実です。

もっとも、もっと長い時間のスケールで考えたときに、情報技術のもたらすものが単なる手段以上のものになるのか、それによって教育の本質を揺るがすような何事かが起こるのかは、よくわかりません。

ヨーロッパ近代文明の発生という人類史的出来事の要因のひとつに、活字印刷による書物の大量生産という情報技術の進展があったことは多くの歴史家の指摘するところです。いま、私たちは、もうひとつのそうした時代の入口にいるのかも知れません。

2004年4月に明治大学は新しい学部「情報コミュニケーション学部」を発足させる予定です。「いま私たちが経験している情報技術の進歩が、社会の仕組みやその中での人と人との関係のあり方に、どのような本質的な変化をもたらすのか」というすぐれて今日的な問題への学問的な寄与を新しい学部に期待しています。